

「みんな集まれ！子どもの広場」の自然観察会は、「(財)日本自然保護協会自然観察指導員 東京連絡会 (NACOT)」の協力を得て開催しています。NACOTの機関紙「SIGN POST」に掲載された、「小石川植物園自然観察会 春プログラム」の報告をご紹介します。

文京区発！自然観察会『小石川植物園春の観察会報告』

地域の子どもの生きる力を育む

開催日：平成18年5月21日(日) 10時～12時30分

場 所：東京大学小石川植物園

参加者：小中学生 64名、保護者 53名、NPOスタッフ：3名、学生 4名

NACOT 指導員：田和恭介、松田、轟、仁平、大久保、原田、田和聡、田邊

文京区観察会には、多くの大学生がサブスタッフとして参加してくれています。今回は、お茶の水女子大学理学部化学科4年生の竹田麻希子さんからの報告です。

私は、5月21日に開催された小石川植物公園での自然観察会でカメラ撮影のスタッフとして参加させていただきました。いくつかのグループに分かれていたので各グループを周りながら、当日取材に来ていたテレビのカメラに張り合いつつ、子どもの様子を撮影していきました。

どのグループにもいえたことは、子どもが熱心に自然の観察・採集を行っていたということです。普段はすぐに興味がなくなってしまう子どもがこんなに熱心に・楽しそうに観察していることが大変新鮮でした。それは、子どもだけに限らず、保護者の方にも言えることでした。

葉脈をルーペで観察したり、お手紙の葉の裏にキズをつけて字を書いたり、てんとう虫のさなぎを見つけたり、回りながら落下していく葉っぱを持っている子どもがいたり、木の幹の穴を花瓶代わりに植物をさしてカメラ撮影に協力してくれる子どももいたり……。子供が自然観察指導員の NACOT の先生方に引っ付いて、先生に教えてもらったことで遊びながら、同じグループの初対面の子と友達になっていく様子は、普段閉鎖された学校で形成していく人間関係とは違った局面を持っているように思われました。

また、理科の教科書に載っている BTB 溶液を使っ



いテストに出るから暗記するというものでしかなかったものが、目の前で使われ・色に変化していく様子には感激しました。観察会のはじめに植物を入れたときは黄色がかった溶液が、終了時には暗い青色になっていくという、今まで自分にとって机上のものでしかなかった光合成というものが身近に感じられました。身近に感じられると、CO₂を消費してくれる植物のありがたみがひしひしと伝わってきて、自然を大切にしたいという気持ちが大きくなった気がします。実体験を子どものうちからしておくことの大切さがよく分かりました。

今回の観察会は、子どもだけでなく保護者などの大人にとっても大変貴重な機会であったと思われます。このような観察会を開催するにあたってご協力いただいた NACOT の自然観察指導員の先生方・ファミリーサポーターの方々・環境ネットワーク文京のスタッフの方々に感謝いたします。また、このような機会をもてればと希望いたします。きっと次回があるならリピーターは多いのではないのでしょうか？